

2021年度 第3回 JSSR プロジェクト委員会

日時:2021年12月2日(木) 19時から19時45分 (Web開催)

(参加者、敬称略):

担当理事:山田宏、委員長:海渡貴司

委員:渡辺慶、折田純久、酒井紀典、大和雄、寺井秀富、今城靖明、安藤圭、若尾典充、長田圭司、宮崎正志、金村徳相、森幹士

オブザーバー:伊藤研悠、本郷道生、宮城正行、山田勝久、手束文威

(欠席者、敬称略):

八木満、岡敬之、宮腰尚久、井上玄、室谷健太、高畑雅彦、今釜史郎

議事内容

1) JSSR プロジェクト委員会 理事会での評価および2022年 JSSR 学術集会でのシンポジウムについて(山田担当理事)

理事会では症例登録が順調に進んでいることを評価いただいている。2022年の第51回 JSSR 学術集会ではセッションを組んでいただいております。委員会の活動報告を行う予定である。

2) 各プロジェクト進捗報告(目標症例登録到達見込み・問題点・解決策)

①頸肩腕症に対する薬物治療の費用対効果(若尾委員)

第2回委員会後、各地区責任者、名古屋大学関連医局、地区統括者の協力を仰ぎ症例登録が急速に伸びている。200症例以上の登録があることから意義ある結果が導き出せる見込みである。

②腰曲がり運動療法(寺井委員)

目標症例登録数には到達したが、ドロップアウト症例もあり継続して症例登録を進める。降雪地帯での参画が多いことから関西の施設での登録を増やして行く予定である。

③成人脊柱変形手術治療(大和委員)

COVID 対応中、登録開始時の症例登録が少なかったが徐々に症例数は増加している。しかし現状の月別登録数では期間内の目標症例登録は難しく漏れのない登録をお願いする。

④腰曲がり保存治療(長田委員)

症例登録を積極的に行っている施設では、該当症例が一巡し今後大きく登録数が伸びない可能性があり、多くの施設で分担し登録を進めていくことが必要である。

⑤腰部神経根ブロックの費用対効果(宮城先生)

症例登録開始3ヵ月であるが症例集積は進んでいる。ブロック実施後1ヵ月空けばエン

トリー可能であることから、是非そのような症例も含めていただきたい。投与薬剤にはステロイドを含むことは必須ではない。

⑥1度すべりに対する除圧 vs 固定（海渡）

症例登録は研究期間（5年）では問題ないペースであるが、比較的一般的な病態であり漏れなく症例登録を進め、期間より早く目標症例に到達することも目指すべきである。

3) 各委員施設からの症例登録状況の報告（全委員）

海渡より現在の各施設の症例登録状況を報告後に、各委員より各施設の現状および今後の方針を説明いただいた。

4) 次回委員会 2022年3月頃